

# 川づくり



# 清瀬の会

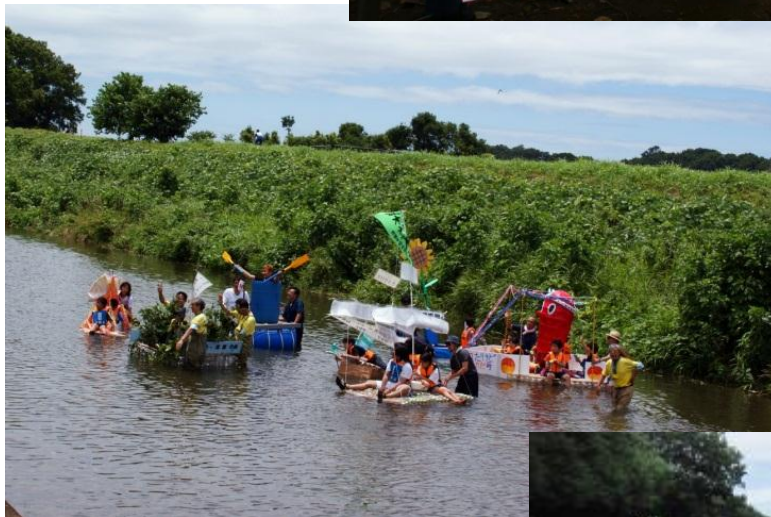
会誌 第15号 2011年 9月発行

発行者 宮澤 とよ美 編集者 会誌編集委員会 連絡先 042-491-3616

## きよせ川まつり2011



目を輝かせ水槽を見つめる子供たち



大人も童心に返るいかだコンテスト

2011. 7. 23



子供たちの魚取りを見守る親御さん

## 目 次

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 新合流地点の設計施工の進捗状況と問題提起（宮澤とよ美）    | 1  |
| 第4回環境フェアの感想（学生有志団体 さんさんさん）     | 4  |
| 新河岸川流域・全国一斉水質調査に参加             |    |
| 1班 柳瀬川上流（野村勝則）                 | 5  |
| 2班 空堀川下流（大谷恒子）                 | 6  |
| 3班 柳瀬川・空堀川、四中水質調査隊（四中校長 宮良晴夫）  | 7  |
| ◆四中「空堀川・柳瀬川水質探検隊」水質調査に参加して（生徒） | 8  |
| 4班 柳瀬川下流（田中くに子）                | 11 |
| ◆総括・水質調査結果（宮澤とよ美）              | 12 |
| ◆柳瀬川・空堀川水質調査結果（表）              | 14 |
| 河川と自然シリーズ③ メハジキ（宮澤とよ美）         | 15 |
| 柳瀬川とはシリーズ③ 接続河川（3）新河岸川（船木淳）    | 16 |
| 第4回きよせ川まつりに参加して（原 剛）           | 17 |
| 「寄稿」柳瀬川との出会いの頃（今泉安広）           | 18 |
| 市民農園と私（戸塚弘）                    | 20 |
| 柳瀬川、空堀川流域連絡会の現地調査（大谷郁夫）        | 21 |
| 定点柳瀬川 魚類調査と清掃（宮澤とよ美）           | 23 |
| 朝日新聞記事より（森田晴彦）                 |    |
| （1）荒川にアユ遡上                     | 24 |
| 2011年度活動記録（4月～8月）              | 24 |
| 事務局だより（大谷郁夫）                   | 26 |
| 行事予定のお知らせ                      | 28 |
| 編集後記（野村勝則）                     | 28 |



2011.8末 柳瀬川新合流部付近（カモが6羽泳いでいました）  
この景観を未来に残しましょう

## 新合流地点の設計施工の進捗状況

宮澤 とよ美

平成 23 年 3 月 24 日、新合流地点の懇談会は課題を残したまま予定の 3 回を終えました。川づくり・清瀬の会は、新合流河川の河床幅及び現柳瀬川への分流口を広げ、天然護岸・河畔林の保全等の願書を、九州大学院島谷幸宏教授、吉村伸一先生の検証を頂きながら、北多摩北部建設事務所へ数回にわたり提出、その後懇談会への動きの無いまま 8 月を向える。

8 月 17 日当会は市長懇談会を申し入れ、渋谷市長、山下都市整備部長、佐々木建設課長、当会幹事 6 名と話し合い、市長も又、北々建や柳瀬川左岸の地権者でもある所沢市長に治水と共に現状の保全を働きかけ、当会との合意事項についてご尽力頂いていることを確認。又、河畔への積極的な緑化についてもご同意を頂く。

8 月 19 日に、合流点川づくりの動向を確認するため、北々建に柳瀬川流域ネットワーク宮本氏・鈴木氏・宮澤の 3 名で訪問。担当の守屋係長及び宮下氏と話し合い、概略以下のような北々建の考えを知ることができる。

懇談会の 3 回目のまとめで、安全確保の上、河畔林が残せるのか水理実験・模型での確認実験の約束がされる。その件について以下は、宮本氏のまとめです。

- ◆現柳瀬川の現況での流下量のチェックをコンサルタントに発注している他、落差工より下流の合流点部周辺の護岸・河道の設計を発注している。
- ◆分流点部周辺の模型実験は現在、実験条件の整理を行っており、1/10 スケールの模型実験を近々発注する予定である。土屋先生はアドバイザーとして実験の指導をお願いする予定である（模型の規模が大きく大学施設では無理なため、コンサルに委託予定）。
- ◆実験の断面形状としては、河畔林をなるべく保全した案も含め計 5 パターンを作成して行う予定である。一次実験の後、有効なパターンを選定し、微修正など加えさらに実験を行い断面形状を決定する予定。模型実験については市民にも公開することを考えている。
- ◆模型実験の 5 パターンについて、現在の計画断面形状（複断面）だけでなく、河畔林を保全する方向の断面も検討対象にするとのことではある。しかし、「現河道のように単断面で流心を右岸寄りにすれば河畔林を保全できるので、そのようなパターンも検討対象にしてほしい」と要請したが、「下流部の合流の流況に影響を与える可能性があるため困難である（合流部の流況のシミュレーションは既に終了しており、合流部周辺の設計も計画断面で実施中のため）」との回答であった。これに対し、「下流部の流況も再チェックすれば、大きな問題はないのではないか？」と伝えたが、抵抗感が大きいようである。
- ◆また、河畔林部分に管理用通路を通すかどうか、その構造などは、埼玉県川越土木事務所の考え方次第であるとのこと。埼玉県に働きかける必要がある。

要するに河川管理者も河畔林保全に向けて単断面設計に変更の考えが伺われた。

河川環境を良好なものにするために立ち上げられた四市流域連絡会の委員も、かかわれるよう委員会に提案、9月6日に現地見学が実行されました。

工事第二課長西村氏 相馬課長補佐 菊池氏 守屋設計係長皆様と委員他総勢29名の参加があり、新合流地点で守屋係長から説明を受け、現在進行中の境橋架け替え工事を見ながら、中里地域市民センターに移動1時間ほど意見交換を行う。

河川管理者の北々建から、12月あるいは1月に河川構造と流量等を想定、筑波にて水理実験を行う、遠方のため市民立会いは出向く必要がある。等少し具体化されている。いずれにしても河畔林保全を前提とした検討が始められていることは大きな前進のように思う。



左岸の豊かな河畔林の前で説明を聞く参加者



完成が待たれる 境橋工事

その後、新柳瀬川の拡幅工事に伴う境橋架け替え工事の説明を頂く

## 残したい河畔の樹木 (金山緑地公園柳瀬川の土手)

今から12年ほど前、金山自然公園に沿う柳瀬川の改修。計画設計では上流同様高水敷を持つ複断面で、公園の池にかかるほど河川幅が広げられる計画設計であった。

公園を狭めることなく、しかも土手を生かし、歴史あるエノキも生かしたい。川づくりに係わる団体の要望に対し、当時の北多摩北部建設事務所工事二課の皆様は真剣に市民団体と向き合い、野塩地域市民センターに何度も足を運ばれて検討がもたれました。

その結果、両護岸傾斜を急勾配にし、公園部の左岸・右岸共に工夫され、公園を狭めることなく流量確保、樹木も土手も生かされ、生態系に配慮されたすばらしい施工がされました。

樹木のところの護岸は角材を井桁に組み、根元を支え今日に至りましたが、十数年を経て、角材は朽ち崩れ始めました。

樹木はおかげさまで生き生きと残り、護岸のみ新たに補強工事が必要となりました。い

つものことながら、河畔の樹木は洪水時弊害になる！ いつもその議論になります。

9月に入って早々、伐採のために業者が金山に！ の話を受け、川づくり・清瀬の会は金山緑地公園に急いで走りましたが、訂正の連絡が入り「今年度予算ではなく来年度です」との事、ほっとし、これまでかなりの洪水があっても、ここまで水は上がらずなんとしてもこの護岸と樹木は保全をして行きたい。

樹木のしっかりと張った根は洪水から土手を守ってもいるのです。土手を洗屈から守り、河川環境を豊かなものにする樹木、川づくり・清瀬の会は保護のための活動をして行きます。



北々建工事第二課の技術力で残されたエノキ、10数年たちました。



杭の腐敗と、根の張り出しもあるのだろうか、足元が崩れています。今年度予算で、早速にも補修工事をしてほしい。

樹木保存のために工夫されたこの護岸工事の耐久性について、大津波を受けながら破壊から免れた9月2日付け朝日新聞の夕刊に大変よく似た工法が掲載されている。樹木を伐採されてしまうとこの護岸は失われる。工夫して残してくれた河川技術者に対しても樹木共々保存をして行きたい。

**岩手県内の小水路に試験導入された木製ブロックの護岸が、大津波を受けてもほとんど無傷だったことがわかった。もともと間伐材の活用や生態系への配慮が目的で導入されたが、コンクリート製の護岸にも負けない機能に注目が集まっている。**

木製ブロックは、九州森林管理局が開発した。直径10センチ、長さ1メートルほどの丸太材を格子状に組んだうえ、長さ約70センチの丸太製の「控え」を直角に取り付けて背面の地中に突き刺して安定させる。主に四国や九州などで道路のり面などに使われてきた。

津波に耐えたのは、岩手県宮古市が1999年に発注した同市赤前の運動公園脇の津軽石川支流護岸と、岩手県が08年度に発注した同県岩泉町小本の長内川護岸。幅数分の川の片側で、約40〜110平方メートル、ともに高さ15センチ以上の津波が堤防を乗り越え、周りの建物や電柱を押し流した場所。宮古市の現場は、わきのコンクリート橋が大きい。

協議会は10月に現地見学会を計画している。担当者は「もともと道路のり面の土留めの工法。水路は例が少なく、貴重な情報だ」と話す。(伊藤智章)

**木製護岸、大津波耐えた 岩手**

大津波に耐えた木製護岸—岩手県宮古市赤前の津軽石川支流、伊藤智章

木製ブロックの模型

2011.9.2 朝日新聞より

## 第4回環境フェアの感想(5月22日)

学生有志団体 さんさんさん  
(社会事業大学)

川づくり・清瀬の会さんから環境フェア参加へのお誘いをいただきました学生有志団体さんさんさんです。当日は大所帯で押し掛けてしまったにもかかわらず、温かく受け入れてくださって本当にありがとうございます。

今回、環境フェアに参加するのが初めてというメンバーが多く、「環境」に対してそれぞれの団体がそれぞれの目線で考えてブースを出していたため、多角的に環境をとらえるよいきっかけを与えていただきました。現在は東日本大震災の影響で節電にも関心が高いため、特にグリーンカーテンやソーラーパネルについて学び考えることができました。また、活気があってにぎやかな雰囲気の中、老若男女を問わず様々な年代の方と触れ合えたことが大変印象に残っています。



川づくり・清瀬の会さんのブースでは清瀬の川に生息する魚の種類に驚いたり、その特徴を細やかに教えていただくなどして会員の方々と触れ合いました。その時の説明がやさしく丁寧、で嬉しかったという声もありました。我々学生にも言えることですが、プランクトンを顕微鏡で見る経験は日常生活の中ではなかなか体験できないため、ブースに来ていた子供たちにとっては特に貴重だったかと思います。

4名は「お茶碗リサイクル」のブースにも参加させていただきました。初めは4人も何をしてよいか戸惑いましたが、次第にブースの担当の方々やお客さんとの会話を楽しめるようになり、とてもやりがいを感じました。また、あれだけの量の食器は見たことがなく、圧倒されてしまいましたし、自分で食器の値段を決めてお客さんに売るというのは普段はできない、貴重な体験もできました。



昨年同様、途中から雨が降ってしまったのが残念でしたが、川づくり・清瀬の会さんには些細なことまでお心遣いをいただきまして、メンバー一同喜んでおります。中には混ぜご飯がとてもおいしかった、という声も。上京

して一人暮らしをしている学生も多いため、こんなに賑やかで優しい皆様に囲まれて、充実した一日を過ごせることはなかなかありません。新しい発見もあり、心の肥やしにもなり、有意義な時間を過ごすことができました。このような催し物などがありましたらまたお誘いをいただければと思います。丸一日にわたり本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 新河岸川流域・全国一斉水質調査に参加

### 1 班 柳瀬川上流

野村 勝則

水質調査に参加するのは私自身 2 回目のことだが、事前にリハーサルをしていたので調査はスムーズに進んだ。天候も年寄りにとって程よい薄曇りで作業の支障になることはなかった。それでも、測定場所である柳瀬川の日向橋、新柳瀬橋、空堀川下流のくるまや橋下の 3 箇所を胴長のまま自転車を乗り回し移動するのだから汗をたっぷりかいた。今回は藤岡さんをリーダーに、大谷さんと私の 3 人で第 1 班 A) を構成した。

くるまや橋付近では空堀川との合流地点改修工事が進められているせいか COD 測定（低濃度）のバックテストでは 3 回とも 4 を示し、他の 2 箇所が 2 だったので測定 3 箇所のうちでもっとも劣った。

バックテストの COD 数値は高くなればなるほど水の汚れが悪化していることを示す。「3 箇所のうちでもっとも劣った」。とは言え、進行中の工事作業を加味すれば水質に問題があるとは思えなかった。

透視度は 3 箇所とも 125 cm。透視度計の上限が 130 cm なので比較的透明度の高い、きれいな水であることが分かる。もし、この目がもっと若かったなら 130 cm には到達していたにちがいない。どうだろうか。

日向橋は野塩団地に向かう小さな橋だが、その下を流れる川には野鳥が飛来し小枝で羽を休めていた。静かな空間がひろがっている。新柳瀬橋下では盗難にあったのだろうか、川の中に自転車が捨てられている。残念なことだ。

水質や生態の調査に加え、川を守るためにゴミの不法投棄などに対する調査も必要なのかもしれない。

川幅、流れ幅、水量などと合わせ、バックテストで行った COD 数値、アンモニューム、亜硝酸などの数値は、昨年と変わらず比較的きれいな川が保たれているとの印象を受けた。川に棲む生き物や野鳥も樹林も、ひとまずは安心して川の水を摂取できるだろう。憩いを求めて集う人々もきれいな水質の恩恵を受けることができる。

水質調査が終わって数日後、宮澤さんから調査結果のまとめを頂いた。このデータを

新河岸川流域の河川や「全国一斉水質調査 2010 年版」などの資料をひっぱり出し比較してみた。柳瀬川は湧水で有名な東久留米市内を流れる黒目川にもひけをとらない水質をもっているし、多摩を流れる河川にも決して劣っていないことが分かる。柳瀬川は誇るべき川なのだといい過ぎだろうか。

しかし、全国調査地図を見ても分かるのだが、残念ながら都心に向かう程に COD 数値は高くなり水質の劣化が著しい。

川の命と環境を守る活動の大切さを痛感する。

## 2 班 空堀川下流

大谷 恒子

6月5日(日) 天候 曇り

第1班(B)(空堀川下流) ①前原橋、②梅坂橋、③三郷橋の3箇所

参加者は斉藤実、菅原英郎、大谷恒子の3人

9時集合で、今年は第1班を2グループに分かれたため、大変能率良く楽に計測出来た。

### ① 「前原橋下流」

何日か前の降雨のため、水が比較的きれいで、まずまずの流れがあり、水深は浅いが、透視度、流速とも測りやすかった。唯一、橋の直下に小形の段ボール等のゴミが散乱しており、風景的には見苦しかった。前原橋(下流側、手前15~6m前位まで前日ゴミ拾いしたのだが)で、魚の姿は見られなかった。

### ② 「梅坂橋下流」

ここも同じく、水がきれいで例年に比較すると水量があり、流れ巾もあった。ここは親水階段があり、川に入って遊ぶ親子や若者が多い。昨日、ゴミ清掃したばかりなのに、夕方から遊んで放置されたゴミが多少散らかっていた。

### ③ 「三郷橋下流」

ここも水がきれいで、流れ巾がいつもより広がっていた。上流側の落差工に魚を獲るようなざるが仕掛けてあった。さらに、落差工付近の岸では、3人のご婦人が桑の実を摘んでいた。この場所は中里緑地(カタクリまつりA地区)をバックに控え、空気も雰囲気も空堀川沿い線の中ではピカールのロケーションである。ゆえに「柳瀬川回廊」の起点となったことは大いに想像に難くないのである。いつもゴミと格闘している者にとっては、ますます張り切らざるを得ないのである。この川に棲息する魚、それを餌とする鳥、そしてこの流れが行き着く海のために……。





### 3班 柳瀬川・空堀川、四中水質調査隊

校長 宮良 晴夫

「全力燃焼！巻き起こせ感動を！」のスローガンで取り組んだ運動会は、保護者・地域の皆様のご支援のお陰で大成功裏に終える事ができました。四中の子どもたちの勢いと力強さを感じて頂いたと思っています。本校の特色の一つは、「全員が行事に燃えることができる！」事だと自信を持って言えるところです。なにをするにも「一生懸命やる事が格好い！」という事を話し続けていきたい

と思います。先日、5日（日）は「身近な水環境の全国一斉調査」の日でした。身近な水辺や河川などの水質や水環境を市民の手で調査する取り組みです。四中の学区には、柳瀬川と空堀川が流れています。本校、バドミントン部1年生16名が柳瀬川・空堀川水質調査隊」を結成し、調査に参加しました。「川つくり・清瀬の会」の宮澤



とよ美会長さんと望月基子さんから、調査方法や手順をご指導頂き、柳瀬川・空堀川、計5地点の調査でした。荒明隊長を中心に仕事分担を行いました。水質調査の内容は、かなり専門的なこともあり、最初はとまどっていましたが、川に入り測定をはじめると、みんな



の表情が一転、楽しそうに測定をしていました。内容は、測定時刻・天気・気温・水温・透視度・川幅・流れ幅・回りの自然の様子・水深・流速・水量・パックテスト・COD（低濃度）・アンモニュームNH<sub>4</sub>・亜硝酸NO<sub>2</sub>・PHでした。特に、断面積や流速、また水量は計算が必要で、苦戦していたようです。柳瀬川と空堀川の合流地点が最後の調査地点でしたが、その頃は、全員びし

よ濡れ状態で、調査終了後は水遊びを楽しみました。柳瀬川の水質は、大腸菌も少なく、水遊びをしても人体に影響がないくらい、数値的に綺麗になっているそうです。今回、参加した生徒は、身近な柳瀬川・空堀川の実態を認識し、新しい発見もあり、貴重な体験が出来ました。さらに、地域の環境から地球規模で環境問題を考え、行動できる中学生に

なっていくことを期待しています。今回の調査結果は、全国のデータを分析し、公表されることになっています。結果を楽しみにしています。

#### ◆ 四中「空堀川・柳瀬川水質探検隊」水質調査に参加して

水質調査の意味も分からずに行ったけれど、最後は楽しく学ぶこともできたし、役に立った気がしたので今は行って良かったと思っています。

1年A組 佐藤 由貴

川の中はきれいだという結果を聞いて少しうれしかったです。私の仕事は気温と水温を測る仕事でした。はかる所によって水温が違うのがびっくりしました。次もこのような機会があったらがんばりたいです

1年A組 二本松 奈央

水質調査は、思っていたよりも難しく、大変でしたがとても楽しくできました。水質調査のしかたを教えて下さった方々もやさしく教えて下さいました。水質調査に行ったら良かったです。

1年A組 渡辺 珠絵

水質調査の感想は、清瀬の川が意外と大きかったなと思いました。それは深さです。川はそんなに深さはないと思っていたらそうでなかったです。もう一つ感じたことがあります。それは意外と調査内容がむずかしかった事や一つ一つ大切な調査だったなと思いました。

1年B組 荒明 英里

ぼくはちょっと遊んだけど、おばさんにいわれたことをちゃんとやりました。水がわきでている所がつめたかったです。

1年A組 鳥澤 良拓

私は川幅を測ったんだけど、川幅が意外と広くてびっくりした。あと、一緒に測ってくれたおばさんたちはとても優しかったです。水質調査はとてもおもしろかったです。また機会があったらよろしくおねがいします。

1年B組 小島 聖奈

最近「川はきたないから入っちゃいけません」とよく言われていたけど、清瀬の川はとてもきれいで、川で遊ぶことの楽しさを知ることができたとともに、川の危険な場所なども知ることができて、とてもよかったと思っています。

1年B組 三木 綾音

僕は、空堀川・柳瀬川水質探検隊をやって思った事は清瀬市の川の中ではきれいなほうだと結果を聞きうれしかったです。わき水があったとは知りませんでした。

1年A組 木内 蓮



あの時は、とっても楽しかったです。水の安全さも知れて、安心しました。とにかく「一石二鳥」でした。最初はやり方もよく分からず、つまらなそうでしたが、それを、やさしく教えてくれたボランティアの方々のおかげで、よく分かりました。これからも、是非呼んで下さい。ありがとうございました。

1年A組 小林 恒幸

わき水をはじめてみた。

1年A組 浜田 尚文

僕は、空堀川・柳瀬川水質探検隊をやった事は清瀬市の川の中ではきれいなほうだと結果を聞きうれしかったです。わき水があったとは知りませんでした。

1年A組 木内 蓮

ぼくは、初めてボランティアみたいな取り組みをして初めての体験だったので少しドキドキしました。やってみると「これが何かの役に立つんだろうな」と思って意外とやることは単純で楽しいなと思いました。自分たちが行った水質調査の結果が楽しみです。

1年A組 芳賀 真希



今回水質探検をして川のきれいさがよくわかってしかもすごく勉強になった。すごく楽しくて先生たちもやさしく教えてくれて楽しかったです。またこういう機会があったらまたやりたいです。

1年A組 山崎 奏



#### 4班 柳瀬川下流

田中 くに子

6月5日(日) 天候 曇

3班 ①城前橋下流 ②東川合流点前 ③清柳橋下流 ④水再生センター放流口⑤放流口下流の五カ所

参加者は田島、加瀬、大栗礼、船山、田中

9時集合で今年は①城前橋下流から観測、薄曇りで体を動かすのには丁度良い天候何日か前に降った雨で川の水は全般にきれいで透視度計は下まで計測できた。

釣り人もいなくて気楽でしたが、川に降りるのに足場が悪くこわい。

流れ幅は岸一杯までであるも浅いため計測は楽でした。

魚影はあまり見られなかったが、河畔林が近くにあり、小鳥の声がよく聞こえた。

②東川合流点上流は、例年になく釣り人が多かった(20人位)。心よく協力してくれた。

すぐ上流に砂州が出来ていて、蛇行した流れは幅が狭く速い流れでした。

管理道路下の中段の草原は、イネ科の物やつる草が繁っているが、対岸はコンクリート護岸が清柳橋まで続く。ここも水質は良かった。

③清柳橋下流、兩岸まで流れ幅があり一番広い緩やかな流れと、水深の差が少ない所。左岸下半分護岸、上半分は草の土手、右岸は広い草の土手に続き環境は良い方である。

④水再生センター放流口、水再生センターの梅や立木が並び、サクランボ、桑の実があるせいか鳥の声が賑やか、私達も桑の実をいくつか頬ばる。ここは階段があるので下に降りるのは楽だが計測場所が困難。



昨年の大雨の影響ですぐ下の砂州がなくなり水の流れが兩岸一杯に広がって透視度、CODなどは計れたが水深は無理、一日約20万トンもの放流水も黄色で臭いあり、CODは8以上。

⑤放流口下は対岸は釣り人に協力していただき、釣り糸を垂らして水深を測ってもらった。80cm流れも速い。釣り人が5,6人いたが魚は釣れていなかった。

田島さんが釣り人に断りを入れてくれ、全般にスムーズに計測出来たし、舟山さんと、若い男の方が川の中に入り積極的に手伝ってくれ、思ったより早く引き上げる事が出来ました。

断面積、水速、水量計算など、折角覚えたのに来年また一からやる事のない様にしたいものである。

## ◆ 総括・水質調査結果

宮澤 とよ美

6月5日(日)清瀬市は、柳瀬川・空堀川で、約7km位、その間、何箇所か下水管もあり雑排水の流入も見られるが湧水も多く、CODの値は大体2 東川・水再生センター放流でも8を超えない。

平成8年頃までは、新座北高校の理科室に毎年お世話になり、蒸留水で希釈をして数値を出すのが当然のことと思うほど河川水は汚れてい、低濃度で測定ができるなんて夢のまた夢でした。希釈なしで測定できるようになり10数年、子供たちの川遊び体験、そして近年水質調査に関心ある学校の生徒を誘うこともできるようになりました。今回は清瀬第四中学バトミントン部16名の生徒さんと校長先生のご参加がいただけました。昨年までは3班で行っていましたが、今年は暑さの中での調査、少しでも時間短縮ができたなら皆様にご協力を頂き4班で行いました、午前中で終わることができました。

参加者：下記の皆様です。

柳瀬川上流 藤岡・大谷・野村

空堀川下流 斉藤(実)・菅原・大谷(恒) 連絡係：戸塚

柳瀬川中流 宮澤・望月・4中生徒さん・校長先生・鎌田氏(日本工営)

柳瀬川下流 田中・加瀬・田島・大栗・船山

用語解説 (合同出版 パックテストで環境調べ参照)

- (1) COD (Chemical Oxygen Demand) : 化学的酸素要求量または化学的酸素消費量といい、水の中に含まれる有機物(汚れ)を、薬の中の酸素を使って分解したものを数値で表します。水中での酸素消費量の値が高い→有機物が多い→水が汚染されている。
- (2) EC (電気伝導度) (Electronic Conductivity) : 水の中に様々な物質が入っている場合、水中のイオンが移動することで、電気が流れ、その電流量を計測することで、水の中に含まれる物

質の量が分かります。一般的に、地表を流れている河川水では、ECが高い水は汚れている水、ECが低い水はきれいな水といえます。

- (3) NH<sub>4</sub> (アンモニア性窒素) : アンモニアが水に溶けたもので、タンパク質などの有機物が多い汚れた水にたくさんあります。タンパク質は分解される途中でアンモニアになり、アンモニアの量は、生活排水や農業排水などと深い関係があります。
- (4) NO<sub>2</sub> (亜硝酸性窒素) : 動植物の腐敗物、排泄物などによる水環境の汚染の代表的な指標の1つ。汚染源が、河川、井戸、湧水に流入すると、アンモニアが水中の酸素やバクテリアなどによって酸化され、亜硝酸になる。亜硝酸が水に溶けたものが亜硝酸イオンですから、これも有機物の多さを示すものです。亜硝酸は酸化されると硝酸になりますが、(水中の) 酸素 (溶存酸素) の少ない環境では、逆に硝酸から酸素が奪われて亜硝酸になることも多い (還元)。PH: 酸性かアルカリ性かの程度を0から14までの数値で表したもので、7が中性。数値が小さいほど酸性が強く、数値が大きいくほどアルカリ性が強いことを示す。PHの値は、水の性質を知る上で重要な要素です。



柳瀬川の土手に群生する ミズタマソウ (アカバナ科) 清瀬市には希少種



柳瀬川の川床に咲く 園芸種の逸種 ハナトラノオ

◆ 柳瀬川・空堀川水質調査結果

| 第23回 身近な川の一斉調査 |           | 川づくり・清瀬の会  |                   |       |    |        |        |     |          |               |     |     |  |  |     |     |       |      |      |      |      |      |       |
|----------------|-----------|------------|-------------------|-------|----|--------|--------|-----|----------|---------------|-----|-----|--|--|-----|-----|-------|------|------|------|------|------|-------|
| 調査日 6月5日 (日)   |           |            |                   |       |    |        |        |     |          |               |     |     |  |  |     |     |       |      |      |      |      |      |       |
| 河川名            | 測定地点番号    |            | 調査日               |       |    | 気温(°C) | 水温(°C) | Ph  | EC(μ/cm) | COD(D)(mgO/L) |     |     | NO <sub>2</sub> -N<br>(mgNO <sub>2</sub> -N/L) | NH <sub>4</sub> -N<br>(mgNO <sub>2</sub> -N/L) | 透視度 |     |       | 川幅   | 流れ幅  | 中央水深 | 流速   | 水量   | 記事    |
|                | 緯度        | 経度         | 調査場所              | 時刻    | 天気 |        |        |     |          | 1回目           | 2回目 | 3回目 |  |  | 最大値 | 最小値 | 平均値   |      |      |      |      |      |       |
| 空堀川            | 35度46分33秒 | 139度30分6秒  | 前原橋               | 9:15  | 曇り | 26     | 19     | 7   | 300      | 2             | 2   | 2   | 0.002  | 0.2  | 130 | 130 | 130.0 | 24.7 | 6.2  | 0.08 | 15   | 0.17 |       |
| 空堀川            | 35度46分45秒 | 139度30分23秒 | 梅坂橋御水階段           | 9:53  | 晴れ | 29     | 20     | 8   | 280      | 2             | 2   | 2   | 0.002  | 0.2  | 130 | 130 | 130.0 | 27.3 | 6.2  | 0.15 | 20   | 0.23 |       |
| 空堀川            | 35度46分53秒 | 139度30分27秒 | 三郷橋               | 10:33 | 晴れ | 26     | 22     | 7.5 | 290      | 2             | 2   | 2   | 0.002  | 0.2  | 130 | 130 | 130.0 | 24   | 16.2 | 0.13 | 20   | 0.53 |       |
| 柳瀬川            | 35度47分2秒  | 139度30分32秒 | 空堀合流前(車庫敷少し下流)    | 10:00 | 晴れ | 26     | 22     | 7   | 270      | 4             | 4   | 4   | 0.005  | 0.2  | 125 | 125 | 125.0 | 38.8 | 11.3 | 0.22 | 20   | 1.29 |       |
| 空堀川            | 35度47分6秒  | 139度30分43秒 | 柳瀬川合流点            | 10:55 | 晴れ | 26     | 21     | 8.5 | 240      | 4             | 4   | 4   | 0.005  | 0.5  | 95  | 94  | 94.5  | 38   | -    | 0.38 | -    | -    | 工事で濁り |
| 柳瀬川            | 35度46分53秒 | 139度29分37秒 | 野塩団地歩道橋           | 9:00  | 曇り | 26     | 19     | 7.5 | 230      | 2             | 2   | 2   | 0.01   | 0.2  | 125 | 125 | 125.0 | 19   | 15   | 0.35 | 0.83 | 2.16 |       |
| 柳瀬川            | 35度47分8秒  | 139度30分40秒 | 新柳瀬橋              | 10:45 | 曇り | 24     | 20.5   | 7.5 | 230      | 2             | 2   | 2   | 0.005  | 0.2  | 125 | 125 | 125.0 | 20   | 9.9  | 0.7  | 10   | 2.3  |       |
| 柳瀬川            | 35度47分20秒 | 139度31分21秒 | 金山調節池             | 9:45  | 晴れ | 25     | 12     | 6.5 | 230      | 0             | 2   | 2   | 0.005  | 0.2  | 123 | 123 | 122.7 | -    | -    | 0.1  | -    | -    |       |
| 柳瀬川            | 35度47分6秒  | 139度30分43秒 | 空堀川合流点(日向橋と清瀬橋の間) | 11:10 | 晴れ | 26     | 21     | 6.5 | 250      | 4             | 2   | 2   | 0.005  | 0.5  | 115 | 115 | 115.0 | 17.5 | 17.5 | 0.52 | 5.06 | 45.5 |       |
| 柳瀬川            | 35度47分7秒  | 139度30分48秒 | 清瀬橋               | 10:55 | 晴れ | 26     | 21     | 7   | 240      | 2             | 2   | 2   | 0.005  | 0.5  | 72  | 72  | 72.0  | 45   | 12   | 0.32 | 0.45 | 1.72 |       |
| 柳瀬川            | 35度47分19秒 | 139度31分23秒 | 金山橋下              | 10:20 | 晴れ | 23     | 20     | 8   | 240      | 2             | 2   | 4   | 0.005  | 0.2  | 120 | 120 | 120.0 | 36   | 13.9 | 0.22 | 1.3  | 3.97 |       |
| 柳瀬川            | 35度47分50秒 | 139度31分55秒 | 城前橋               | 9:10  | 曇り | 23     | 19     | 6.5 | 150      | 4             | 2   | 2   | 0.002  | 0.2  | 130 | 130 | 130.0 | 26   | 14.1 | 0.34 | 8    | 2.32 |       |
| 柳瀬川            | 35度48分14秒 | 139度32分14秒 | 栗川合流前             | 10:10 | 晴れ | 24     | 20     | 7   | 240      | 2             | 2   | 2   | 0.02   | 0.5  | 130 | 130 | 130.0 | 29   | 13   | 0.29 | 6    | 2.17 |       |
| 柳瀬川            | 35度48分17秒 | 139度32分16秒 | 清瀬橋(旧坂の下橋)        | 10:30 | 曇り | 25     | 20     | 7   | 270      | 2             | 2   | 2   | 0.2  | 0.5  | 128 | 118 | 123.0 | 30   | 21   | 0.32 | 0.7  | 2.94 |       |
| 柳瀬川            | 35度48分22秒 | 139度32分25秒 | 清瀬下水処理場流口         | 11:00 | 曇り | 27     | 24     | 6.5 | 360      | 8             | 8   | 8   | 0.1  | 1  | 125 | 116 | 120.5 | 60   | 16   | -    | 4    | -    |       |
| 柳瀬川            | 35度48分22秒 | 139度32分27秒 | 清瀬下水処理場(下)        | 11:20 | 曇り | 27     | 23     | 6.5 | 360      | 8             | 8   | 8   | 0.2  | 1  | 118 | 110 | 114.0 | 60   | 19   | 0.8  | 0.7  | 10.6 |       |



## メハジキ (シソ科 メハジキ属)

宮澤 とよ美

めはぎの脛ふさげば母がある 長谷川かな女

子供の頃から、生活の周りに普通にあり、遊びに取り込んだ野草がある。その1つがメハジキです。メハジキは割りと川辺に沿う道端や草原に多く、美しく目立つという草本ではありませんが、しっかりとした茎を2~3cmほど折り、脛の上下に挟んで目を開かせて遊ぶ、子供たちにとってはなじみの草でした。

戦後おもちゃなど無いとき、子供たちは夏場になれば川辺に集まり、上級生・下級生一緒になって手近かに生える草、虫、さかな捕り、なんでも上級生のまねをしながら遊び、下級生へと伝承をしてゆきました。

ところがこのメハジキ、清瀬には何故か見当たらない。昭和46年発行檜山庫三氏の「武蔵野の植物」には確認されているので、その後の市街化・河川の改修等で失われたと思われる。イチヤクソウ・ヤマユリ等過去にその場にあったものは時を経てしばしば再生を見る。メハジキももしかしたらと、関心を持って調査をしていると、平成21年7月、空堀川河床で1本を見つける。今年も三郷橋少し上の河床に花を見ました。外来種の蔓延る今、増えたらうれしいメハジキです。

メハジキは本州・中国・東南アジア等に分布する。発芽して2年目に花をつける越年性。根生葉と茎葉の形が大きく異なり、メハジキもその筆頭。芽生時には写真のように長い柄があり丸く、鋸歯を持つ。茎葉は細長く、3深裂し、茎の先端部では1枚の鋸歯のある葉となる。花は7月から8月にかけて、上部の葉脇に淡紅紫色の唇形花を段上につける。

又、益母草(ヤクモソウ)という別名を持ち、産前・産後の保健薬として用いられたことからとか。



メハジキ



根生葉と唇形花



## 柳瀬川とはシリーズ③

### 接続河川 (3) 新河岸川

船木 淳

これまで、柳瀬川へ合流する河川を幾つかご紹介し、今号では空堀川をご紹介する予定でしたが、都合により、新河岸川をご紹介します。

新河岸川は、荒川水系の一級河川です。(34.6km) 行政上、川越市上野田町の八幡橋付近が、新河岸川の起点ですが、新河岸川へ流れ込む赤間川(農業用水)の水源は入間川に設置されている笹井ダム(埼玉県入間市)で、ここが事実上新河岸川の水源なのです。笹井ダムで取水され、入間川の土手沿いから、狭山、川越市内を流れ、新河岸川へと名前を変えるまでの区間が赤間川です。

新河岸川は川越の中心部を回り込むように流れ、不老川、九十川が合流し、渋井水門で新河岸川放水路を分水し、福岡江川(ふじみ野市管理準用河川)、砂川堀(都市下水路)、富士見江川(富士見市管理準用河川)、そして、志木市役所付近で柳瀬川が合流します。柳瀬川が合流した後の新河岸川は、更に黒目川、越戸川、東京都へ入り、白子川、前谷津川、蓮根川、出井川が合流し、岩渕水門で荒川より分水された墨田川へ合流します。合流というより、新河岸川の先が墨田川という印象ですが…。

かつて新河岸川は、舟運で栄え、城下町川越と江戸を結ぶ動脈でした。しかし、鉄道の開業により、舟運は衰退してしまっただけです。福岡河岸記念館(ふじみ野市)で、当時の資料を見ることができますので、ぜひ機会がありましたら、当時の様子をご覧ください。



新河岸川に設置されている田谷水門(川越市)

## 第4回きよせ川まつりに参加して

原 剛

今年の川まつりは、異常に低い気温の日々の後をうけて開催された。まつり当日の早朝も、気象情報の予報とは異なって、盛夏としては気温が低く、肌寒い風が吹いていた。

実行委員長泣かせの天候だった。

幸い開会時間にむかって、雲が薄れ、陽光がさしてきた。とは言っても水温は21度だそうで、全身を水に浸せば頭が痛くなりかねない冷たさだった。

簡単な開会式のあとに、川に入る子供たちのために、準備のラジオ体操を行った。

さらに、川に入り川で遊ぶことの心構え、川を取り巻く環境の保護について、宮沢会長から懇切丁寧な話があった。



いよいよ子供たちが川に入る時間だ。しかし気温が低かったせいか、水が冷たそうに感じられたせいか、子供たちの反応は昨年までとは違い、川に入るのを待ちかねて、川へと急ぐことはしなかった。他方、その子たちを見守るために川の中で待ちうける大人の姿も、初めは川づくりの会の2、3名ほどだった。

しかしそれは最初の数秒のことで、手に手にタモ網をもった子供たちは、いったん川に入ると、魚とりに夢中になった。唇の色が変わるほど寒くなった子も、なかなか川から出ようとしなかった。

ただ残念なことに、獲物を網で取ることが出来た子は少なかった。「川を堰きとめたばかりなので、環境が変わったことに驚いた水中の生き物が姿を潜めたのだろう」という会員の声が聞こえた。

魚とりの後のボート遊びにも、子供たちは夢中になった。今年はボートの数が比較的に少なく、初めはボート待ちの子がたまったが、やがて多くの子たちがペットボトルの単純な筏に半身をのせて、漂っていくようになった。

水深はあの程度がよかったが、流速はほとんどないよりも、少しは流れがあったほうがおもしろかったのではないだろうか。

休憩後の筏コンテストでは、筏を川に浮かべる時にモタついたグループが見られたが、なんとか出場の筏が出揃って川を進んだ。筏の出来栄えについて言えば、四小のグループの筏は良く作られていたが、他の筏は、2隻を除けば、オツカツと思われた。緑の葉で飾った我々の筏のアイデアはみごとだったが、身うちを遠慮させる倣いで、今年も我が筏は三位までに入ることはなかった。

川に入らなかった子供や大人にとっても、疑似魚とりのゲーム、ロバ、売店の食べ物など、楽しみに事欠きはしなかったに違いない。とりわけ我々のテントの水槽の魚たちとその説明、顕微鏡で見る微生物等は川まつりの圧巻だった。後片付けについては、我々のグループは、昨年同様に整然とキチンと完了したが、会場全体としても、昨年より手際よく出来たように思われる。それにしても、市の「環境調査の概要」で、この綺麗な川を「生活環境の保全に関する環境基準の「E 類型」を達成している」と、あっさり片付けるのは如何なものか。



## 「寄稿」

### 柳瀬川との出会いの頃

今泉 安広

柳瀬川を知ったのは、1995年の秋だったと思います。その年の4月に、23区内の建設事務所から、全く新しい職場環境に異動し、河川工事の監督事務が仕事になりました。そのころ柳瀬川の改修状況は、金山調節池及び金山橋下流、松柳橋上下流が竣工し、用地の取得に合わせて改修工事が進められていました。

東京の河川といえば、石神井川のようにコンクリートの護岸に固められた水路というイメージが強く、平常時は流れも少なくゴミが散乱していました。河川の改修工事も鋼板で囲われた中で、H形鋼を組んだ仮設、鋼材の杭打ち、鉄筋コンクリートの構造物を造るという「無機的な工場」といった趣でした。

ところが、新職場の隣に流れていた黒目川は、水量が多く（コカコーラ壕の洗浄水）、オイカワやコイが群遷していました。年度当初は、工事が発注されていなく、現場（出先職場）はさして忙しくないのです、雑工事の監督業務の傍ら、自転車で東久留米市内の黒目川や落合川を探索して回っていました。異動前の職場は、環状第八号線の事業化に向けて実に多忙だったので、少し休憩しようと企んでいたのかも知れません。

そうこうしているうちに、柳瀬川の改修工事が発注されて、図面のチェックや現場の下調べの仕事が始まりました。柳瀬川は、意外に大きな河川で、少年の頃、水泳や魚採りに夢中になって遊んでいた豊川を思い出させてくれました。

私は生来、物事に夢中になると、周りが見えなくなってしまう性分でした。小学校の頃は寄り道でカバンを道端に忘れてくるのがしばしばであったし、中学生の頃は昼休

みにアユ釣りに夢中になり午後の授業を忘れてしまう始末でした。

柳瀬川の工事現場の仕事も、懸案が解決し工事が着工されてくると、生来の性分が頭をもたげてきました。柳瀬川はどんな川だろうか？と調べ始めたわけです。私には専門と言えるほどのものはありませんが、河川は全くの門外漢でしたので、すべて柳瀬川のほとりで湧いてきた疑問を頼りに調べ始めました。

まずは、流域を調べようと、昼休みや時間の合間に、狭山潮から新河岸川までカメラを片手に探査しました。次は、水質を調べようと、水の汚れ具合や淀み・水わたや水中藻を見てまわり、各市の水質データを収集しました。もちろん、流れの性格を理解するために水理学の入門書も読みました。疑問というものは、ある種中毒のようなものでして、疑問には解決というものはありません。現場にいと、次から次へと疑問が湧いてくるものです。おかしなもので、こんがらかってきた頃にやっと疑問に思ったことがなぜ疑問に思ったかが判るといった次第です。こうして私の中に、少しずつではあるが、「柳瀬川」が形成されていったと思います。

年度末になると工事も順次竣工していきます。4月には工事の検査も終了し、現場の引継ぎ、書類の整理といった残務整理になります。

5月には時間的に余裕ができてきます。せっかく調べた資料をまとめておこうということで、報告書「柳瀬川レポート」を作成することにしました。こうなると、ただの資料集というわけにはいきません。それなりに系統だった形にしなければなりません。資料を表や図に編集したり、足りないデータの補足、必要なデータは自分で現場から求めることになります。

レポートの範囲を清瀬市内にしぼり、川の流況や景観、水際線の種別、さらに流量調査、沿川の土地利用状況など、撮影したり、測量したり、流速測定したり、踏査する根気の要る作業をひとつひとつ実行していかなければなりません。これらは、現場の職員にとっては大変でした。「好きでやっている」ということで、組織の手助けなど期待できるものではないからです。いまでも、随分と手間暇かけて、データの作成や整理・評価をやったものだと思ひ出されます。

とにもかくにも、「柳瀬川レポート」が出来上がりました。内容の稚拙さは仕方のないことですが、柳瀬川への思いが詰まり、その後の柳瀬川との係わり合いのモチーフとなった報告書でした。余談ではありますが、300部の印刷製本の費用として、当時薄給の夏季手当から少くない額を充当したのを懐かしく思います。

それからせつせと、「柳瀬川レポート」を各方面に一方向的に送り、配りました。本人は柳瀬川について知ってもらいたい一心でしたが、送られたり手渡された方々にとっては迷惑だったろうなと赤面の思いです。それでも、このことによって多くの方々と知り合うことができましたし、その後の私の柳瀬川との係わり合いにとって、とても大きな「財産」になりました。

いまから思えば、柳瀬川と出会い、柳瀬川が心に住み始めた「その頃」は、私の人生

にとっての転機でありました。40歳の半ばを過ぎて、随分遅い転機ではありましたが、以来、柳瀬川は実に多くのことを私に教え与えてくれました。それは、「川には、人を育む力がある」ということでしょうか。この力を、柳瀬川が今後も、ずーと持ち続けてほしいと心底願わざるを得ません。



柳瀬川・空堀川合流地点の近況



## 市民農園と私

戸塚 弘

きれいな空気、おいしい水、私達が生きて行く上に絶対欠かすことが出来ないものを森林（みどり）は、与えてくれます。 緑は大事ですなあ。（テレビ番組より）

川づくり・清瀬の会では「水とみどりの豊かな恵みを未来に」と柳瀬川・空堀川の川辺の緑化、保全、回復や清掃に心がけています。

清瀬市は、市域の約4割は緑地、農地面積は約2割と恵まれ、「緑の環境づくり条例」と「農業振興計画」に守られた、農で育む町づくりが進められています。

市民農園は、その保全策の一つです。農園は市内に五箇所あり、一区画 20 m<sup>2</sup>で 259 区に整備され、契約は3年です。

私は、10 数年市民農園で野菜作りを行ってきました。困難で大変だと痛感する一方、収穫の期待という楽しみがあります。

当初は、畑全体を有効に利用しようと考え、空き地を残さずに苗を植え付けたところ、人が入る余地が無いほど野菜が繁茂し、散々な思いをいたしました。それからは、その点を注意してきましたが失敗も多々ありました。散水も苦労の種で、雨の期待が一途です。

今年は、あらかじめ植え付けの計画を立てて始めましたが、4月の気候不順にあい、早めに植えた苗は枯れて再度植え直しました。しかし、物産店で元気な新種の苗を見つけると、つい購入してしまいます。更に自宅で苗作りしたトマト、ナス、キュウリ、ニガウリ等が

順調に育ったため、つい余地を見つけては移植したり、「わき芽かき」と「間引き」が疎かになったため、野菜の背丈が伸びずに横に広がり空間とか風通しも悪くなり、散々なことになってしまいました。

無造作に蒔いたカボチャが畝一杯にはびこって、他の野菜に被さる状態になってしまいました。

また、収穫が間に合わず巨大なナス、キュウリやひび割れたトマト、ニガウリなどは黄色になって下部がポッカー開いて種を見せ、おぼけ提灯のようになってしまいました。

反省点が多くなりましたが、新鮮な野菜を味わうことを楽しんでおります。

今は、大根にかけています。過去に苗の移植時、堀込みが浅くて失敗したことがありましたが、今年は同じ失敗をしないよう心がけているので収穫を楽しみにしております。

なにより、健康を求めてこれからも頑張っている予定です。

## 柳瀬川、空堀川流域連絡会の現地調査

大谷 郁夫

空堀川は柳瀬川の支流で、都立野山北公園の源流から武蔵村山市、東大和市、東村山市及び清瀬市の四市を流れる全長約 15 km の河川である。

源流に湧水が少なく、空堀と呼ばれる一方で大雨が降ると洪水が起きる「荒れ川」であった。高度経済成長期には、生活排水が流れ込み、ひどくよごれた川であったが、その後の対策等が進み、現在では水遊びが出来るほか、多種の小魚が棲む川になっている。

このような状況から、本流域連絡会では、今後の進むべき方策のひとつとして、空堀川の上流から下流までの4つの流域で懸案となっている箇所（即ち、上流から①武蔵村山市の河道内調節池、②東大和市の高木橋～東芝中橋、③東村山市の御成橋～なかよし橋、④清瀬市の柳瀬川、空堀川合流地点）を中心に6月27日（月）第2回流域連絡会・現地調査を実施した。（マイクロバスにより移動、総勢30数名の参加）

見学順序としては、集合地の清瀬市からスタートし、1番目の清瀬市・柳瀬川と空堀川の現合流点付近の境橋の架け替え工事及び空堀川の改修工事を見学した。

本来であれば、新合流点及び河畔林を見学してもらう予定になっていた。残念!!

次いで2番目の東村山市・御成橋～なかよし橋の見学を実施した。（写真1）

御成橋左岸から約60tの湧水がJR武蔵野線「新秋津電車区」から流れ出ている関係から、これらを有効に利用できないかとの案が出て



（写真1）御成橋左岸（武蔵野線からの湧水）



(写真2) 高木橋工事現場付近

動した。新薬師橋から中砂橋までの間に武蔵村山河道内調節池がある。(写真3) この辺り一帯は都市河川の典型的のものである。堀が深く、親水階段もないため、魚取りはできず、川らしくない河川である。その割には調節池の護岸工事だけは立派であり、かなりの費用が投じられているようである。

終了後、時間があつたため、空堀川の源流を訪ねることになり、徒歩で源流地点に向かった。ここは都立野山北公園の一角にあり、里山的な雰囲気のある癒される空間であつた。(写真4)

なお、今回の現地調査結果を踏まえ、「水循環分科会」又は「河川環境分科会」のいずれかに分かれ、次回以降、集中審議が行われることになっている。



(写真3) 河道内調節池



(写真4) 野山北公園の木道

いる。また、なかよし橋と御成橋の間に親水階段を作る構想も出ている。見学後、次いで3番目の東大和市に移動した。空堀川の新旧河川が交差している高木橋～東芝中橋付近を見学した。(写真2)

東芝中橋上流は、雨が降らないとまったく流れがなくなる。空堀川の蛇行が最も激しい区間である。さらに、直線化によって作られる新河川は現河川より標高が高いところを流れる最も不自然な川となっている。次いで、4番目の武蔵村山市へと移



## 定点柳瀬川 魚類調査と清掃

宮澤 とよ美

年に数回定期的に市民の皆様に、河川の魚等生き物を紹介する機会が多くなりました。5月の環境フェア、7月の川まつり、清掃時のついで調査、活動センターの団体紹介、そして今年度から“きよせふれあいまつり”(10/22)にもミニ水族館で参加が決定しています。その都度投網の名手矢島氏・増田氏にお願いして流水性の魚：オイカワ・アユを捕っていただき、草陰に多いハゼの仲間、フナ、ドジョウ、時には大型のニゴイ・マルタウグイなど展示と同時に個体数大きさを調査いたします。さかな展示は子どもにも大人にも毎回好評で、柳瀬川の魚種の多さに驚き、河川に遠い方も柳瀬川、空堀川に興味を持っていただけます。

時には新入会員大竹君から、台田団地前で、なまず、そして初めて、スズキ(スズキ目・サンフィッシュ科)海岸近くや河川に生息する大型の肉食魚、成長につれて呼び名が変わる出世魚。とブルーギル(スズキ目・スズキ亜目・スズキ科)北アメリカ原産の淡水魚。日本に分布を広げた外来種を捕りましたと7月25日伝えて頂く等写真と共に確実な情報として記録ができます。

夏の調査は間をおかずにできますので、定点生き物調査を今年から9月に変更、下記の結果が得られました。

2011年9月9日(金) 晴れ 9:30~10:20

参加者：戸塚・朝日・矢島・増田・木村・望月・加瀬・大谷・大谷・田中・湯浅・宮原・宮澤

水は澄むが、何故か魚種は少ない、フナ・モツゴ・タモロコ・ドジョウの類が網に入らない。水際の草が少ない、河床が平らにならされて、河床止めにブロックなど敷かれたためか。

|          |   |       |   |       |   |       |   |       |   |       |   |      |   |
|----------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|------|---|
| アユ       | : | 20 cm | 1 | 19 cm | 1 | 17 cm | 2 | 16 cm | 2 | 15 cm | 3 |      |   |
|          |   | 14 cm | 1 | 13 cm | 4 | 12 cm | 1 | 11 cm | 1 | 10 cm | 1 | 9 cm | 1 |
| オイカワ (♂) | : | 15 cm | 1 | 14 cm | 1 | 13 cm | 5 | 12 cm | 5 | 9 cm  | 1 |      |   |
| (♀)      | : | 13 cm | 2 | 12 cm | 1 | 11 cm | 2 | 10 cm | 1 | 9 cm  | 3 | 8 cm | 1 |
| ドジョウ     | : | 8 cm  | 1 | 6 cm  | 2 |       |   |       |   |       |   |      |   |
| ヌマチチブ    | : | 12 cm | 1 | 11 cm | 2 | 9 cm  | 2 | 8 cm  | 2 | 7 cm  | 2 |      |   |
| トウヨシノボリ  | : | 8 cm  | 2 | 7 cm  | 3 | 6 cm  | 3 | 5 cm  | 1 | 4 cm  | 1 |      |   |
| ギバチ      | : | 6 cm  | 3 | 5 cm  | 1 | 4 cm  | 3 |       |   |       |   |      |   |
| テナガエビ    | : | 2 cm  | 1 | 小     | 3 | ヌマエビ  | 多 | シマエビ  | 多 |       |   |      |   |
| アメリカザリガニ | : | 6 cm  | 3 | 子多数   |   |       |   |       |   |       |   |      |   |



投網の稽古



相変わらずごみが多く清掃

森田晴彦氏より

荒川にアユ遡上

朝日新聞より

魚道を通した稚アユを計測する職員（28日、秋ヶ瀬取水堰で）

稚アユ遡上 住民らが観察 志木の取水堰

稚アユの遡上の観察会が28日、志木市下宗岡の秋ヶ瀬取水堰で行われ、近隣住民や自然保護団体のメンバーら約60人が参加した。利根導水総合事務所が15年前から遡上数を調査しており、この日は正午からの約2時間で約1万6700匹が確認された。参加者らは堰の脇に設けられた全長36メートルの魚道を見下ろし、数々の稚魚が体をくねらせて泳ぐ姿に目を細めていた。

1〜27日の遡上数は計17万4150匹。昨年同期より3割ほど少ないという。同事務所では、春先の水温が低めに推移したことなどが影響したとみている。NPO法人「荒川流域ネットワーク」理事の千葉茂樹さん（51）は「東京湾から荒川にアユが遡上していることを県民にもっと知ってもらいたい」と話していた。

## 2011年度 活動記録（4月～8月）

- 4月 1日（金）臨時幹事会（新合流点の考え方）参加6名
- 4月 10日（日）吉村先生を囲んでの合流点懇談会（せせらぎ管理棟）参加10名
- 4月 15日（金）幹事会（合流点、年間行事計画、事業計画、予算）参加7名
- 4月 21日（木）環境フェア実行委員会（最終確認）

- 4月26日(火) 今泉氏による柳瀬川合流点の測量調査 参加8名
- 4月27日(水) 第12回定例総会(活動センター) \*議案すべて承認、新幹事紹介。  
\*総会后、斉藤隆雄氏より、柳瀬川、空堀川の橋の歴史について講演。  
参加22名
- 5月6日(金) 第1回幹事会(役割分担、幹事会の進め方、年間行事日程、環境フェア、水質調査実施要領、新幹事紹介) 参加11名。
- 5月9日(月) 大林組敷地内の植生見学(キンラン、ギンラン)  
◇世界初のスーパーアクティブ免震システム見学 参加13名
- 5月13日(金) 環境フェア展示物準備作業(八小) 参加13名
- 5月13日(金) 第6期(第1回)柳瀬川、空堀川流域連絡会(北北建) \*進め方
- 5月14日(土) 平成23年度「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰・団体受賞  
参加:宮澤、加瀬、田中 \*富山市総合体育館
- 5月14日(土) 水質調査要領(リサイクルプラザ・北朝霞) 参加:望月
- 5月19日(木) 編集委員会(会誌・第14号の掲載内容) 参加7名
- 5月21日(土) 環境フェア展示物貼付け作業(ころぼっくる) 午後:魚類捕獲  
(柳瀬川)並びに環境フェア準備(活動センター)
- 5月22日(日) 第4回環境フェア(児童センターころぼっくる) 参加18名  
\*天候にも恵まれ約5千人が来場。
- 5月24日(火) 編集委員会(会誌・第14号掲載内容) 参加5名
- 5月26日(木) 今泉氏との柳瀬川合流点の追加測量調査 参加7名
- 5月26日(木) 編集委員会(会誌・第14号掲載・校正点検) 参加4名
- 5月28日(土) ~29日(日) 会誌・第14号の印刷作業・発行 参加8名
- 6月2日(木) 第2回幹事会(水質調査リハーサル併催) 参加10名
- 6月5日(日) 新河岸川流域・全国一斉水質調査(空堀川、柳瀬川の上・中・下流の4班に分かれ実施)  
\*流れ巾、水量、透視度、パックテストなど各種調査を実施。  
四中17名、鎌田(日本工営)、会員14名【詳細は会誌9月号参照】
- 6月14日(火) 臨時幹事会(川まつりへの対応) 参加7名  
(夕方)新河岸川流域連絡会 19:00~21:00(野塩市民センター)
- 6月20日(月) 河川清掃(柳瀬川・台田) 参加5名
- 6月25日(土) 河川清掃・帰化植物除去(空堀川)【せせらぎ探検隊共催】  
\*四小の生徒さんと空堀川の清掃及びブタクサ抜きを行い、参加者による芋煮会を実施した。参加30名
- 6月27日(月) 第2回柳瀬川、空堀川流域連絡会・現地調査(北北建)  
参加:関係者含め30名【詳細は会誌9月号参照】
- 6月28日(火) 新合流点の河畔林現地調査及び情報交換会

\*今泉氏による2回の柳瀬川測量結果に基づき情報交換。

(所沢市関係者：2名、清瀬市・会員：5名)

7月7日(木) 第3回幹事会(川まつりの役割分担ほか) 参加12名

7月8日(金) 第3回柳瀬川、空堀川・流域連絡会(北北建)

7月12日(火) 第4回環境フェア反省会(中清戸) \*スタンプラリー好評。

7月16日(土) ペットボトルによる筏作成(スイートフィッシュ・アユ号) 参加8名

7月17日(日)、21日(木) 筏の作成。

7月22日(金) 第4回川まつりへの水質調査及び魚の捕獲(柳瀬川)

7月23日(土) 第4回川まつり(柳瀬川・台田運動公園)

\*2回目の筏コンテストに4位入賞(素敵な賞品ゲット) 参加28名

8月4日(木) 第4回幹事会(川まつり反省、今後の予定ほか) 参加11名

8月6日(土) 新合流点改修の河畔林を残すための話し合い(今泉氏)

\*参加：斉藤、渋谷、小西3市議含む16名

8月7日(日) 川まつり反省・暑気払い(アイラシティー) 参加10名

8月9日(火) 河川の清掃と大ブタクサ抜き(空堀川：梅坂橋・親水階段前)

\*体験ボランティア・佐々木君(清瀬小5年)、大竹君(下里中2年)

会員11名、会員外13名、(計)26名

8月10日(水) 編集委員会(会誌・第15号掲載内容について) 参加4名

8月17日(水) 渋谷市長との懇談(新合流点・河畔林) 山下部長、佐々木課長

\*斉藤、渋谷市議、宮澤、田島、加瀬、大谷

8月18日(木) マーキング(梅坂橋～三郷橋) 宮澤、大谷

8月20日(土) 臨時幹事会(今後の行事日程、いい川づくりワークショップなど)

\*せせらぎ管理棟 参加7名

8月23日(火) 第4回柳瀬川、空堀川流域連絡会(北北建)

8月25日(木) 編集委員会(会誌・第15号掲載内容) 参加7名

◇事務局◇

## 📧 事務局だより 📧

大谷 郁夫

川づくり・清瀬の会の行事も早いもので、1/3が過ぎました。その間、大きなイベントとして環境フェア(5月)、全国一斉水質調査(6月)、川まつり(7月)が行われました。主役はもちろん子供達です。特に、川まつりでは、初めて川に入る子、初めて魚を取る子など、初めてづくしの子供が多かったようです。最初は緊張している子が多く、どうなるのかと心配でしたが、そのうち、魚をゲットした女の子が満面の笑みを浮かべ、ヤッター!! それを聞いた周りの子が俄然元気になり、夢中で魚を追いかけるのを目の当たりに見て、今までの苦労が報われた思いがしました。子供達のために、これか

らもがんばって行きたいと思います。一方、大人達は川づくり・清瀬の会の統一した黄色のTシャツに身を包み、各部所の担当エリアで働いているさまを見て、一時の連帯感が生まれたような雰囲気になりました。川まつりに参加された会員の皆様、ありがとうございました。会の行事もこれから、目白押しで、種々の行事が続きますが、なにとぞよろしくお願い致します。なお、まだ、Tシャツを購入されていない方がおられましたら、是非、ご購入下さい。(いつときの連帯感を味わいませんか?) 1枚 1,100円 (Mサイズのみ) となっております。ご希望の方は事務局までご連絡下さい。

### 「空堀川の清掃、大ブタクサ抜き」を皆様のご協力により行われました!!

8月9日(火)空堀川の梅坂橋を起点に、上流域の柳原橋、下流域の三郷橋の2手に分かれ、河川の清掃及び大ブタクサ抜きを実施しました。当日は、体験ボランティアの2名を含め、当会会員11名、会員以外の方13名の計26名が参加されました。終了後、親水階段前の広場でおしるこ会を催し、参加者間の親睦を行いました。



真夏の炎天下の中多数のご参加ありがとうございました

### ◇新会員紹介

大竹雅葵君 (下里中学2年生)

永瀬佳子さん (所沢市)

どうぞよろしくお願いいたします。



大竹君が見つけた柳瀬川のモズクガニ

## ◇行事予定のお知らせ

### 環境市民セミナー 子どもの健康と環境汚染

日 時： 10月1日（土） 午後1時30分より

場 所： 清瀬北口駅前 アミュー 6階 講座室

講 師： 国立環境研究所（子供の健康と環境について調査研究） 佐々木裕子 氏

清瀬市環境課 清瀬ダイオキシン対策等市民協議会 共催

### プランクトン（観察(顕微鏡を楽しもう)

日 時： 10月5日 午後1時30分から

場 所： 清瀬市民活動センター

講 師： 小田部家邦氏(元警視庁科学捜査官 六都科学館講師)

### 編集後記

本号作成で、なによりも嬉しかったのは、感想文です。一本は「環境フェア」に参加した社会事業大学の学生のもので、もう一本は「全国一斉水質調査」に参加した清瀬第四中学の校長先生と教え子の皆さんからのもの。

「川まつり」を含め、いろいろなイベントを通して自然環境の問題を真摯に考えておられる。

「多角的に環境をとらえるよいきっかけ」（社事大）。「地域の環境から地球規模で環境問題を考え、行動できる中学生になっていくことを期待」（四中校長先生）と述べられています。中学生の率直な感想もいきいきとおもしろく読ませていただきました。

川を中心に自然保護活動を行っている私どもとしては、励みと勇気をもらいました。自然を大切にする心は共通です。

多忙の中、時間を割いて寄稿いただきことにお礼を申し上げます。

編集委員会メンバーに木村さんが今号から加わってくれたことも嬉しいニュースです。木村さんはパソコンを自由自在に操れるプロ(?)です。会誌作成の大黒柱になってくれることでしょう。おおいに期待しています。



野村

川づくり・清瀬の会 事務局 大谷方  
〒204-0004  
東京都清瀬市野塩 1-156-5 401  
電話番号 042-495-9052  
e-mail i-otani@live.jp